

## 一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会表彰 被表彰者

### ◆表彰 団体

表彰規程 第3条(1)、(2)に該当(組織運営が他の範、PTA実践活動が顕著)

表彰	校 園 名		P T A 名称	会長名
会 長 賞	奈良教育大学附属幼稚園		奈良教育大学附属 幼稚園育友会	山本 智子
	事例名称	「捨てちゃうものがステキに変身！～未来のためにアップサイクル～」		
	講 評	この取り組みは地元企業とのコラボレーションを通じて、廃棄物を再利用し新たな製品を生み出す素晴らしい事例です。子どもたちが廃材を再利用することで、創造性や持続可能な発想力を養うことができます。ランドセル革地の再利用は、喜びと楽しさを提供するだけでなく、地域の産業にも貢献しています。また、デザインや製造プロセスを通じて、子どもたちが実践的な経験を積むことも重要です。このような活動はSDGsの取り組みにも貢献し、地域社会との連携を強化します。地域の産業廃棄物の再活用は、地域の持続可能性を高めるだけでなく、地域経済にもプラスの影響を与えます。外部の連携やSDGsへの取り組みを通じて、より広範囲での影響を生み出すことが期待出来		

表彰	校 園 名		P T A 名称	会長名
優 秀 賞	大阪教育大学附属平野小学校		大阪教育大学附属平野 小学校PTA	藤井 由香
	事例名称	「みんなで海の豊かさを守ろう！ヘチマプロジェクト」		
	講 評	このプロジェクトは、環境意識向上と金銭教育・コミュニケーション能力育成を両立し、SDGsに基づいた取り組みです。海ごみ問題への理解を深め、伝統素材の活用により過去の知恵と現代の環境課題に対する解決策につながることを期待できます。		
表彰	校 園 名		P T A 名称	会長名
優 秀 賞	鳥取大学附属小学校		鳥取大学附属小学校 懇話会	柴原 史則
	事例名称	「わくわく！附小の防災体験」		
	講 評	防災体験は、日本において不可欠な教育であり、全国的に普及すべき重要な取り組みです。現在の社会では災害が身近にあり、実践的な準備や学習の機会が不足しています。子どもたちが家庭内で啓発活動を行うことは意義深いと考えられます。		
表彰	校 園 名		P T A 名称	会長名

優 秀 賞	大分大学教育学部附属幼稚園		大分大学教育学部附属 幼稚園PTA	福嶋 崇
	事例名称	「祖父母ふれあいデー」		
	講 評	核家族化が進む中、祖父母が孫の園での姿を見る機会は少ないため、このような取り組みは有益であり、PTA活動として取り入れるべきです。		
表 彰	校 園 名		P T A 名称	会長名
優 秀 賞	三重大学教育学部附属幼稚園		三重大学教育学部附属 幼稚園育友会	岩田 知紗
	事例名称	特別支援学校と幼稚園をつなぐ幼稚園育友会オリジナルTシャツ大作！！		
	講 評	幼稚園と特別支援学校のコラボレーションは素晴らしい取り組みであり、特別支援学校の生徒たちの活躍が伝わり、学校間の交流が促進されています。幼稚園児と特別支援学校の生徒たちが微笑ましく交流し、責任感も育まれるでしょう。今後もつながりを強化し、更なる交流の機会を期待される事業です。		
表 彰	校 園 名		P T A 名称	会長名
優 秀 賞	京都教育大学附属学校園		京都教育大学附属学校園 育友会連合会	堀内政宏
	事例名称	「京都6 学校園が楽しく親睦できる合同交流事業への改革」		
	講 評	6 校園の交流は素晴らしい取り組みであり、学校ネットワークの強さを活かした効率化が評価されます。コロナ禍を踏まえた取り組みは特に注目され、6 学校園の連携が団結と交流の様子を示しています。		
表 彰	校 園 名		P T A 名称	会長名
優 秀 賞	福岡教育大学附属幼稚園		福岡教育大学附属幼稚園 PTA	井上聖士
	事例名称	「研修部主催のさつまいもの植付けから収穫まで」		
	講 評	子どもたちにとって成長過程を体験する貴重な機会です。親子で楽しめる畑作業は自然との触れ合いを通じて学びと喜びをもたらします。		
表 彰	校 園 名		P T A 名称	会長名
優 秀 賞	熊本大学教育学部附属特別支援学校		熊本大学教育学部附属 特別支援学校PTA	笹原 慎二
	事例名称	令和4・5年度熊本大学教育学部附属特別支援学校PTA実践集		
	講 評	活動のブラッシュアップは将来同じ境遇の方々にとって心強い支援となります。家庭における成長記録として取り組むことは高く評価され、今後の生徒や保護者に有益な情報源となります。悩みや経験を共有することは他の保護者や子どもたちにも役立ちます。特別支援学校の生徒の多様性を反映した支援が必要であり、さまざまな内容の実践集の作成は子どもたちの将来に役立つものと考えられます。その制作には負担がかかるかもしれませんが、その意義は大きいと考えます。		

## 附属学校最新情報紹介

学校名	奈良教育大学附属幼稚園		
役職	育友会会長	氏名	山本 智子
活動名	捨てちゃうものがステキに変身！～未来のためにアップサイクル～		

本園では毎年、育友会が主催し「子供たちと保護者の方々がじっくり触れ合い楽しむこと」を目的としたイベントを開催しております。また園では日頃より SDGs・ESD に積極的に取り組まれており、子供たちも私たち保護者もそれについてのお話を伺い学ぶ機会が多くあります。そこで今年度のイベントは、楽しく遊びながら SDGs をより身近なものとして捉えられる体験ができないかと考え、「アップサイクル」をテーマに廃材を利用したクラフトを企画しました。

奈良には老舗の皮製品を扱う会社が多数あり、中でも子供たちにもなじみの深いランドセルの製造会社にご協力を依頼したところ、快くランドセル生地廃棄部分をゆずって頂くことができました。廃棄部分とは思えないほどの色とりどりで綺麗な皮生地をたくさん頂くことができ、長く使えるフォトフレームと、通園鞆やランドセルにもつけられるキーホルダーの二点を制作することにしました。

◇イベント当日は、まず初めに、子供たちにアップサイクルとは何かについて、分かりやすい言葉でスライドを用いて説明しました。

そして、ご協力頂いたランドセル会社ではどのようにランドセルが作られ、その過程でどうしても捨ててしまう部分が出てきてしまうこと、捨てられる部分をみんなの力で長く使える素敵なものに生まれ変わらせようというお話をしました。



◇生地を型に切ったり穴を開けたりという作業までは予めこちらで準備し、

- ① 好きな色の生地と、飾りのパーツを選ぶ
- ② フォトフレームは紐を通して、カシメ金具で止める、キーホルダーも金具を通してカシメ金具をつける
- ③ 生地に様々な模様の金型を押し当て、木槌で上から叩き模様を付ける

という三つの工程を子供たちに体験してもらいました。



子どもたちは色とりどりの生地や、初めて触れる道具に目を輝かせ、保護者の方と協力しながら少し難しい作業にも夢中で取り組んでいました。

子供たちからは「もっとやりたい!」「またやろうね!」という嬉しい声もたくさん聞かれ、保護者の方々からも、「捨てる部分を減らすということを親子共に意識していきたいと思った」「廃材から作ったとは思えないかわいい作品ができた」「子供がワクワクして何度も挑戦していた」等のご感想を頂きました。

アップサイクルを実体験することで、より SDGs にも興味関心をもち、自分事として捉える機会にもなったのではないかと思います。

(一社) 全国国立大学附属学校PTA連合会 令和5年度PTA団体表彰エントリーシート

学校名	大阪教育大学附属平野小学校		
役 職	PTA 会長	氏 名	藤井 由香
活動名	みんなで海の豊かさを守ろう！へちまプロジェクト		

**【活動の趣旨】**

本校のPTAサークルに「AKP24」という教育支援サークルがあります。AKPとは「明日の教育を共に創り出す保護者（Parents）の会」を意味します。

このサークルが主体となり、SDGs14番目の目標である「海の豊かさを守ろう」を掲げて、「へちまプロジェクト」という活動に取り組んでいます。キッチンスポンジなどのプラスチック製品を使うと、擦れてできたマイクロプラスチックごみが排水口から河川を通りやがて海洋へと流れていきます。このマイクロプラスチックごみを魚が食べ、その魚を人間が獲って食べると健康被害が懸念されます。このような構図を払拭するために、子供たちと一緒に栽培したへちまの実を加工してへちまたわしを作りました。作ったへちまたわしは校内清掃に用いる他、児童の各家庭で使ってもらうことで利用の拡大を目指しています。またへちまたわしの有効活用、へちまプロジェクトの周知に向けて、動物園や水族館との連携を計画しています。

**【活動の内容】**

今年度は冬の「わくわくイベント」で保護者と共にへちまをカットし、皮をむき、ヒモを通す加工を行いました。子どもたちは授業で学ぶSDGsについて保護者と共に体験することでさらに深い理解につながる楽しい体験ができました。実はへちまの皮を剥くのは個体によっては容易でないことがあります。保護者のアドバイスで工夫することで、子どもたちはへちまを上手に剥くことができていました。

今後の活動として子どもたちによるへちまたわしの商店街での販売も計画しています。そのことを通じてさらに金銭教育にも貢献したいと考えています。

**【活動の感想】**

へちまたわしを通じて遠い海洋環境を身近に感じる活動を行うこと。その活動を保護者と共に楽しく行うことで子どもたちは自分たちを取りまく環境についての関心を持つことができるようになっていきます。またこの活動は本校の他、10の幼稚園・保育園・こども園・小学校、4つの自治体が参加・協力しており、同じ目標に向かう1つのチームとして活動しています。また地域社会との繋がりを持つ取り組みにもなっています。今後も子どもたちが自身を取り巻く環境に興味を持つ取り組みを進めてゆきたいと考えています。



へちまにヒモを通して・・・



海の環境について真剣に聞き入る子どもたち

(一社) 全国国立大学附属学校PTA連合会 令和5年度PTA団体表彰エントリーシート

所属学校名	鳥取大学附属小学校		
TA名称	鳥取大学附属小学校懇話会	会長名	柴原史則
事例名称	わくわく！附小の防災体験		

鳥取大学附属小学校懇話会は、令和元年度以降、学校とともに、防災について大学の先生方や学生と勉強会等を行い、防災に関する取組を進めています。特に、その中でも、懇話会は、防災に関する意識啓発と学校の備蓄品の充実（非常食や備品）に力を入れており、その取組の一つとして昨年度から「わくわく！附小の防災体験」を開催しています。

「わくわく！附小の防災体験」は、防災について体験しながら学ぶイベントです。鳥取大学地域安全工学センターの協力のもと、先生方や学生が担当する「災害の仕組みについての体験ブース」と鳥取大学の学生団体「防災Lab.」や鳥取大学附属小学校懇話会育成委員会が担当する「避難に関する体験ブース」があります。参加者は6つのグループに分かれて、全ブースを体験します。「災害の仕組みについての体験ブース」では、川の堤防が壊れて氾濫した場合に浸水の状況がどのように変化するかVRを使って体験したり、災害時に利用されているドローンを実際に操縦してみたり、建築物の骨組の模型を使って建造物の構造と倒壊の関連性などについて学んだり、水を使って津波を起こしたり堤防を決壊させてその仕組みを考えたりします。「避難に関する体験ブース」では、新聞紙で作った食器など非常時に役立つものを身近な物で工作したり、段ボールのベッドやトイレを使って避難所での体験をしたり、防災用品にはどのようなものがあるかを実際に手に取ってみたい、背負って運んでみたいとします。

参加した家庭からは、「体験することで災害を自分事として捉えることができた」「実生活での命を守る行動に活かしていきたい」「さっそく家の備蓄品を確認した」などの感想が寄せられています。災害をただ怖いものと捉えるのではなく、どのような仕組みで起こり、万が一の災害にどう備えておけばよいのかを、このイベントでの体験を通して知り、家庭で考えてもらう機会となっています。

この取組は、今年度で2回目の開催となります。今年度は、令和5年7月に起こった鳥取県東部の河川氾濫の様子を実際の映像等を交え説明を受けたり、非常食を作って試食したりする体験も行いました。また、全ブースを鳥取大学の先生方をお願いした昨年度とは違い、今年度は「避難所体験ブース」を懇話会育成委員会が担当し、3日間の避難所生活をするための必要最低限の防災用品に何を準備したらよいかを委員たちで一から考えたり、段ボールベッドやトイレを準備したりと、内容も関わり方も一層工夫しました。

現在、この取組は進化途上です。今後も、少しずつ工夫し変化させながら継続的に取り組み、「わくわく！附小の防災体験」等の活動を通し、防災について考え、確認し、家庭での意識啓発に繋がるよう、取り組んでいきたいと思います。

【地震の伝わり方・  
構造物の構造と倒壊の関連性を学ぶ体験】



【浸水疑似体験・  
浸水の状況を知るVR体験】



【防災用品・  
避難生活のための防災用品】



【避難所体験・  
段ボールベッド】



(一社) 全国国立大学附属学校PTA連合会 令和5年度PTA団体表彰エントリーシート

所属学校名	大分大学教育学部附属幼稚園		
PTA名称	大分大学教育学部附属幼稚園 PTA	会長名	福嶋 崇
事例名称	祖父母ふれあいデー		

大分大学教育学部附属幼稚園では「ゲーではなくパーで」を合言葉に、できる人ができる時にできる事をしよう！と園の行事やPTA活動の見直しを行っています。

コロナ禍以前は、運動会前にほぼ全てのご家庭の祖父母が来園し、園児と運動会の飾り旗を製作する行事がありましたが、今年度は祖父母ふれあいデーという名称に変え、手を挙げてくださった33名の祖父母の方にご来園頂き、一芸を披露いただいたり、園児と遊んだりしていただきました。

一芸では楽器の演奏や、手品やフラダンスを見せていただきました。初めて見る楽器や紙を使った手品に、園児は興味津々。特にフラダンスは「南の島のハメハメハ大王」を園児でも踊りやすくアレンジして下さり、ふれ合いタイムで園児に教えてくださったので、祖父母ふれあいデーの後も園児の中でブームが続き、運動会では年少児が全員でフラダンスを踊って会場を大いに沸かせてくれました。

その他、ふれ合いタイムでは、あやとりやお手玉、カルタ、折り紙といった昔の遊びを教えてくれるコーナーや、本の読み聞かせコーナー、ラジオ体操やバドミントンを一緒にしてくれるコーナー等、祖父母の皆さんが工夫を凝らして園児と遊んでくれました。

事前準備では、園と共に研修部が企画運営に携わり、各コーナーの準備や調整、会場設営に取り組みました。また、手芸サークルがお手玉やあやとりの紐を作成し、環境安全部がトイレの清掃や交通誘導を行う等、多くのPTA会員の協力の元、無事執り行うことができました。



(一社) 全国国立大学附属学校PTA連合会 令和5年度PTA団体表彰エントリーシート

所属学校名	三重大学教育学部附属幼稚園		
PTA名称	三重大学教育学部附属幼稚園育友会	会長名	岩田 知紗
事例名称	特別支援学校と幼稚園をつなぐ 幼稚園育友会オリジナルTシャツ大作戦！！		

当園の育友会では、昨年度から育友会活動のスリム化の一環でバザーを中止しました。しかし、子供たちの為にバザーに代わる何かできる事をと考え、昨年度からオリジナルTシャツの販売企画をし始めました。今年度は、オリジナルTシャツの販売企画を立ち上げると同じ時期に、特別支援学校の校長先生から、生徒が、Tシャツのプリントを就労に向けて授業でしていると伺いました。



そこで、幼稚園のオリジナルTシャツを特別支援の生徒にお願いできたら、幼稚園の子どもたちと特別支援の生徒たちとの交流にもなるのでは、また、実現をしたら、たくさんの人の思いが詰まったTシャツになるのではないかと執行部のみんなで考え、特別支援にお願いする方向で動き始めました。お願いするにあたって、特別支援のプリント担当の先生と直接会い、特別支援学校の生徒にとって、Tシャツをプリントして、販売する授業がいかに大切なものなのかを教えて頂き、また、色々な相談をさせていただきました。一時は、希望納期が合わず、今回は、無理なのかも・・・と諦めかけたのですが、

特別支援学校育友会 吉村会長から

「特別支援の生徒たちのモチベーションになるので是非！自分たちがプリントしたTシャツを幼稚園の子どもたちが着ていたら、本当に生徒たちも喜びます。次へのやる気にもなると思います。」と言って頂き、今年度は、子どもたち用の白Tシャツのプリントをお願いいたしました。二学期に出来上がった白Tシャツは、特別支援の生徒が、幼稚園に持ってきて頂き、直接子どもたちに手渡してもらいました。納品に来てくれた生徒は、

「Tシャツのサイズが小さいので、枠に挟むのが、難しかった。」

「こんなに喜んでもらえて、嬉しい。」と、笑顔で教えてくれました。幼稚園の子どもたちは、特別支援のお兄さん、お姉さんがTシャツを作ってくれたことが本当にうれしくて、お礼に歌をプレゼントしました。さらに、



今年度は、Tシャツの他にオリジナルエコバッグも企画。そちらのプリントも特別支援にお願いし、販売いたしました。



「特別支援の生徒も大口の依頼を頂いた事で製品を作るということに責任感を持って取り組み、幼稚園の子どもたちに直接納品して喜んでもらえて、さらに自信がついたようです。今後も四附間でこのような交流の機会が増えると良いと思います。」特別支援の育友会会長からも嬉しい言葉を頂き、幼稚園育友会では、特別支援の生徒

と幼稚園の子どもたちが、今まで以上に交流でき、共に笑顔で、支えあえられるように、今後もFT工房 (FUZOKU TOKUSHI FACTORY) さんをお願いできればと思います。

全国国立大学附属学校PTA連合会 令和5年度PTA団体表彰エントリーシート

所属学校名	京都教育大学附属高等学校		
PTA名称	京都教育大学附属学校園育友会連合会	会長名	堀内 政宏
事例名称	京都6学校園が楽しく親睦できる合同交流事業への改革		

京都では幼稚園，桃山小学校，桃山中学校，京都小中学校，高等学校，特別支援学校の6学校園で京都教育大学附属学校園育友会連合会(京附連)を構成しています。高等学校の育友会会長が，京附連の会長を兼任しています。京附連では，これまで合同体育大会として54回開催した歴史があります。2023年度は，コロナ禍で中止になっていたこの大会を4年振りに開催することにしました。これまでの大会は学校園対抗のソフトボール，バレーボール，玉入れ，綱引きでした。参加者はソフトボールとバレーボールの人が中心で，各学校園の育友会役員，保護者，先生でした。開催時間は，ほぼ丸一日でした。

5月の京附連委員会にて，55回目の大会は専門性の高い競技が中心ではなく，①6学校園全ての育友会会員が気軽に家族で参加，②楽しく親睦を深め合うことを目的とした合同交流事業として再出発することになりました。今回の当番校は高等学校なので，高校の育友会役員と先生で話し合い具体案に落とし込みました。10月の開催までの準備期間を踏まえ，55回目の大会もスポーツを通じての交流を目的としましたが，競技内容や時間などを見直しました。競技内容は各学校園にグーグルフォームでアンケートをとり「玉入れ」，「大玉転がし」，「ピンポン玉リレー」の3種目に決めました。時間は気軽に参加でき，各学校園の育友会役員の負担が減るように9～12時の午前半日にしました。子供は附属学校園に通うお子さんの兄弟姉妹なら，ほかの学校に通っていても参加可能にしました。立派な大会パンフレットは廃止し，子供用の参加賞と競技参加者の賞品に振り替えました。各競技のチーム編成も学校園対抗を廃止し，各学校園が均等に分かれ，家族が一緒になるように工夫しました。玉入れは子供対抗も実施し，ピンポン玉リレーは大人と子供の混合チームにしました。このように大幅に内容を見直した結果，前回大会の2倍以上の470名の申込みがあり，高校の全校生徒440名を超える申込者数でした。

10/22(日)の大会当日は晴天に恵まれ，高校の人工芝の上で各学校園の参加者が和気あいあいと運動し，子供が応援しながら芝の上を走ったり，寝そべったりしていました。最終的な参加者は，当日参加を含めて449名でした。大会終了後のグーグルフォームによるアンケートを解析すると，家族で参加でき，拘束時間が短いことが高評価で参加者数を大幅に増やした要因だとわかりました。12/13の京附連委員会にて来年度以降も，京附連

6学校園の第56回合同交流事業として，スポーツにこだわらず，各学校園の親睦を深める目的で，当番校の特色を活かして，内容を工夫し継続することになりました。2024年の当番校は，桃山小学校と幼稚園です。どんな内容が，企画されるか今から楽しみです。



所属学校名	福岡教育大学附属幼稚園		
PTA 名称	福岡教育大学附属幼稚園 PTA	会長名	井上 聖士
事例名称	研修部主催のさつまいもの植付けから収穫まで		

研修部は九州地区国立大学附属学校園 PTA 連合で決めた研究テーマに基づき活動しています。これまでもさつまいもの栽培は園内で実施していたのですが、前年度野生動物に畑を荒らされてしまいました。福岡教育大学技術教育ユニットの平尾教授にご相談したところ、大学の農園の一部を貸してくださることとなり、今年度は平尾教授のご指導の下でさつまいもの栽培・収穫を実施しました。自然環境に興味をもち、観察する楽しみを親子で共有できることを目標としました。以下、経過と工夫を記します。

〈準備〉

平尾教授が立ててくれた畝に、保護者ボランティアがマルチシートを張りました。

〈さつまいも苗の植付け〉

- ・あらかじめ名前を書いた木札にイラストを描いてもらい、植付けへの楽しみを膨らませました。
- ・より関心をもてるように自分の株を持ち植えつけました。
- ・品種の違いを楽しめるように2品種（ふくむらさき・紅はるか）を使用しました。
- ・「よく育つために一番大切なのは、気持ちを込めること」と教えていただきました。



〈水やり・成長の観察〉

- ・園児には、自然豊かな大学構内の探検もかねて、水やりなどのお世話に取り組むようにしました。
- ・収穫前に芋ほりのお話の読み聞かせを行いました。
- ・葉の形の違いを観察しました。



〈収穫〜〉

- ・親子で収穫後、家庭に持ち帰り楽しんでもらいました。
- ・蔓は保育時間でリース作りに活用してもらいました。
- ・年長クラスは農場で柴刈り（大学内の森で薪集め）と焼き芋パーティーを開きました。



〈成果〉

目標通り、植付けと収穫を親子で体験できたことが一番の成果です。専門的な知識と豊富な経験をもつ大学教授に直接指導してもらえたのは、附属幼稚園の強みといえます。年長児は柴刈りと焼き芋を通して、育てる・収穫・食べるが繋がりと、さらなる達成感を得ることができました。美味しい！と口々にできたての焼き芋をほおぼったり、紫色と黄色の焼き芋を交換しながら楽しむ子どもたちの姿は幸せそのものでした。

今回の活動を通して、土のにおい、葉の手触り、芋を引き抜く感触、焚火の香り…たくさんのおこを感じる事ができました。五感に紐づけられた記憶はふとした時に蘇り、心を温めてくれるものです。人間関係が希薄になりがちな昨今ですが、今後も大学、幼稚園、保護者で園児の活動を支えられるように引き継いでいきたいと思います。

(一社) 全国国立大学附属学校PTA連合会 令和5年度PTA団体表彰エントリーシート

所属学校名	熊本大学教育学部附属特別支援学校		
PTA名称	熊本大学教育学部附属特別支援学校PTA	会長名	笹原 慎二
事例名称	令和4・5年度熊本大学教育学部附属特別支援学校PTA実践集		
「熊本大学教育学部附属特別支援学校PTA実践集の作成」			
目的			
<ul style="list-style-type: none"><li>・令和4・5年度の子どもの社会自立に向けたそれぞれの家庭でテーマを設定し、実践を行った。</li><li>・本校PTAの中に「実践活動委員会」を設置し、保護者主体で作成を行った</li></ul>			
<p>熊本大学教育学部附属特別支援学校では、小学部1，4年生，中学部1年生，高等部1年生で，本人，保護者，担任，保護者が希望する外部関係者が一同に会し，高等部卒業後の自立を見据え，支援内容等に関する本人の夢実現に向けた「支援者ミーティング」を行っている。その結果を取り入れながら各家庭でも子どもたちの夢実現に向けた実践を行っている。</p> <p>前回，平成29・30年度において「実践集」を作成した。この家庭における実践は，小学部1年生から高等部3年生までの全児童生徒に対する取り組みが記されており，本校へ始めて入学した児童生徒の保護者にとってとても参考になるものであった。しかし，前回の作成から5年が経過しており，手探りの状態での取り組みとなった。</p> <p>実践集作成の意義として，小学部1年生から高等部3年生までの，年齢や学年，特性に応じた子どもたちの成長や発達が見える資料となることがあげられる。また，子育てに悩んだときに振り返ったり，ヒントを得たりすることができたり，次のステップへの参考となると考え，在籍する保護者（全家庭）が実践報告を執筆し，それらを取りまとめ，新たに本年度作成することになった。</p> <p>実践報告は，小学部17本，中学部18本，高等部24本の計59本（59家庭）である。執筆された内容は，「今後できるようになってほしいこと」「確実に身につけてほしいこと」など，現在から将来を見据えた課題や短期目標・長期目標について，また，現在進行中の課題等について取り組んだ。</p> <p>これらの内容については，年齢，学年，性別，特性に応じた支援など多岐にわたっていた。これらはそれぞれの家庭が子どもたちとしっかり向き合い，今何が必要か，将来的に何が必要かを考え，実践した内容であった。</p> <p>本年度，執筆した内容においては，令和6年度九附連実践活動協議会鹿児島大会で，各学部から1本ずつの3本を発表予定である。</p> <p>今回，実践集を作成するに当たって，全家庭が実践を行い，執筆したことが意義深いと捉えている。また，家庭で目標を持って子どもたちを支えていくことの重要さに気付かれたのではないだろうか。</p> <p>一人一人の成長を記したこの実践集は，単なる事例報告書ではなく，障がいのある子どもの子育てにおいて悩んだ時に，同じ悩みを持っている保護者がいることで，学年，学部を超えて保護者同士が相談できる生きた参考書となった。そして，決して一人で悩むことはなく，相談していいのだと，この実践集を通して感じてもらえれば幸いである。</p>			